

職場の労働条件改善と 組織強化・拡大へ



上石委員長 あいさつ

新潟・山形では参議院・統一候補を選出、国労新潟地本としても推薦、いずれも当選、勝利した。しかし、安倍内閣を止めることは出来なかった。

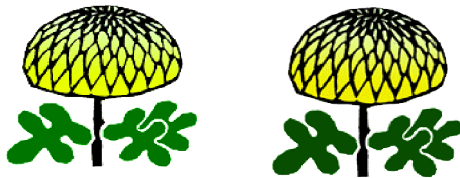
10月、県知事選について原発再稼動に厳しい泉田知事が撤退した。反原発を進める統一候補を。

JR東日本は社員数が減少しているがパートナー会社の人員が増えている。安全軽視、あるいは技術継承を行える状況になっていない。外注化の見直しなど改善を取り組んでいかなければならない。

JR貨物は賃金の格差や差別が続いている。労働条件の改善や賃金格差を無くしていく。

最大の課題は組織拡大だ。今年、国労結成70周年、それにふさわしい運動を進め、すべての活動を拡大につなげていこう。

支部凍結～組織状況から支部を維持することが出来ないため凍結する。支部独自の活動は地本が担っていく。大会で代議員の発言で方針の肉付けをしてほしい。



議長に近藤代議員を選出、近藤議長は「これからの地本を皆さんの発言、議論でいろいろな課題について取り組みを進めていこう」とあいさつがありました。

その後、議運・資格審査委員会・選管から報告がありました。10時35分現在、代議員11名中8名の出席を確認し、地本規約第16条から大会特集で今号と次号の国鉄新潟も大会特集になります。次号は代議員の発言内容を中心に企画編集します。

教宣部の担当は引き続き、藤井執行委員が担当します。よろしくお願います。

分会・地域・趣味など記事を地本教宣部へお寄せください。



第69回定期地方大会 9月10日開く

第69回定期地方大会が、9月10日10時より地本会議室で開催されました。大会では、代議員、大会構成員など多くの方々から、職場の労働条件について、出向先の問題点、組織拡大、支部凍結について発言がありました。

地本執行委員長に 齋藤氏



NO. 890
発行
2016年
9月20日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
齋藤 仁司
編集責任者
教 宣 部



近藤代議員 議長に選出



規約改正で今年も役選の年（任期1年に改正）新執行委員長に齋藤仁司さんを選出し、新しい執行体制が確立されました。

大会は、10時に佐藤副委員長の開会あいさつで「最重要課題である組織拡大について各分会が取り組み、大会を通じて意思統一を図ろう」とありました。

編集後記

新しい執行体制が確立されました。昨年、規約改正しましたので、役員任期が1年になりました。毎年、役員選挙になります。

大会特集で今号と次号の国鉄新潟も大会特集になります。次号は代議員の発言内容を中心に企画編集します。

教宣部の担当は引き続き、藤井執行委員が担当します。よろしくお願います。

分会・地域・趣味など記事を地本教宣部へお寄せください。



国労東日本本部 武笠執行委員長 あいさつ



○戦争法の強行採決

戦争法を許さない闘いが歴史的に広まった。その闘いが参議院選挙の勝利につながった。労働組合の役割も大きかった。参議院選挙でも労働組合の役割は重要、けん引役として求められている。要求で団結する。強化していく。宣伝強化が重要だ。

○労働条件の改善

東日本は合理化が進んでいる。駅の無人化が広がっている。要員不足で現場は余裕が無い状況で作業が続いている。

団交では、職場の要求が前進していない。安全が守られていない。分会・支部で自治体や利用者への宣伝行動の実施、自治体へは駅無人化の質問など取り組まれた。

○労働協約の改訂

8月以降、労働協約の改訂を求め

地本新役員体制

- 執行委員長 齊藤仁司 (総括・法対)
- 執行副委員長 加藤秀夫 (業務)
- 書記長 福富雅彦 (企画・共済)
- 執行委員 藤井明人 (教宣・共闘)
- 荒井聡 (財政・総務)
- 岡 聡 (財政補助・組織)
- 新野徹 (調査・組織)
- 清野聡 (組織)
- 特別執行委員 佐藤昌典 (共闘)
- 会計監査 鷲尾太郎 木村伸一



ていく。アンケートなど調査・宣伝し広めていく。労働法、省令から見た点検など、珪砂の問題は労働安全衛生法の改正でわかった。その改善や規制をかけていくことを要求していく。沿線住民への説明安全性についても対策を進めていく。JR各社が使用している。全国的な闘いに広げていく。

雇用形態など、グループの組織化を進めていくこと。労働契約法20条

○組織拡大について

貨物・大宮車両所での拡大や郡山駅で5名の拡大があった。青年労働者の要求を訴えていくことが拡大につながる。青年部が本社と交渉を実施する。

をどう活用していくのか。エリア本部・本部の課題だ。判決を生かせる闘いを作り出すため世論形成を。



○安全問題について

グループ会社に多くの未加入者がいる。その人たちに働きかけていくことが拡大につながる。NTSへの申し入れを引き続き取り組んでいく。第三セクター「ときてつ」で組合の組織化について当面はJRグループだけが、全国組検の議題として議論していく。

アンケートを集約・要員問題について(社員数)。JR東日本では、毎年2千人から3千人が退職している。要員要求を出している。来年度は新採者を多く採用するようにしていく。

輸送障害→直営区分の見直し、人材の育成、机上教育から現場での教育を考えていく。JR各社へ求めていく。



○17春闘について

16春闘はストライキを執行しなかった。現状で本当にストで闘う体制になっているのか。17春闘ではスト権の行使を進め求められている。JR貨物の労働者はストを求める要求が多い。春闘を押し上げることや世論形成を広めていくこと。17春闘を今から準備を進めていくことを要請する。



- 来賓あいさつ
 - 日本共産党
 - 新社会党
 - 退職者組合新潟地連
 - メッセージ
 - 新潟県労働組合総連合
 - 国労東日本本部
 - 各地方本部
- 忙しい中大変ありがとうございました。